

## 家族経営を核とした地域一貫経営体制による F<sub>1</sub>生産への挑戦



白岩 修 (しらいわ・おさむ)  
愛媛県北宇和郡三間町

### <推薦理由>

- ① 両親と共に家族内の意識統一による家族労働の明確化・一体化を図り、共同体制がとられている。
- ② 地域酪農副産物（初生牛）を有効に活用した、ほ育から肥育までの一貫経営を確立している。
- ③ 酪農家との地域一貫体制を確立するとともに、堆肥流通などを通じて水稻や果樹農家など、耕種農家との連携を十分に図っている。
- ④ 長年培われてきた飼養管理技術に裏付けられて、枝肉格付の上物率（73.1%）が極めて高く、併せ1日当たりの増体（1.12kg）効果によって収益性の向上が図られている。  
更なる肉質向上を図るため、畜産関係機関の指導のもと、肥育ステージ別の血中ビタミンAを継続測定を行い、ビタミンコントロール技術を確立する等新たな理論の確立を目指している。
- ⑤ 全頭、除角（導入後30～40日の離乳時に観血去勢と同時）を実施することにより、牛へのストレスの軽減、危険性が回避されるとともに作業・労力が短縮され、より作業の効率化が図られている。併せ、肉質の向上と増体効果にも、より良き影響を与えている。
- ⑥ 平成12年からパソコンを導入することにより、手書きの収支記帳から、複式による記帳に取り組み、関係機関・団体との連携を密にする中で、よりきめ細かな経営分析及び経営改善に取り組んでいる。

(愛媛県審査委員会委員長 西田 仁 司)

## <発表事例の内容>

### 1 経営・活動の内容

#### 1) 労働力の構成

(平成14年4月1日現在)

区分	続柄	年齢	農業従事日数		年間 総労働時間	備考
				うち畜産部門		
家族	本人	43	350	330	2,700	
	妻	38	50	50	150	
	長男	15				
	次男	13				
	三男	11				
	父	72	250	230	650	
	母	66	200	180	100	
常雇	なし					
労働力計	4人	850日	790日	3,600時間		

#### 2) 収入等の状況

(平成13年1月～平成13年12月)

区分	種類 品目名	飼養頭数	販売量	販売額・ 収入額	収入 構成比	概ねの 所得率
農業 収入	交雑種・乳雄	283頭	119頭	58,092千円	88.6%	
	その他(補てん金等)			7,509千円	11.4%	
農外収入	なし					
合計		283頭	119頭	65,601千円	100%	29%

3) 土地所有と利用状況

(単位：a)

区 分		実 面 積		畜産利用地 面 積	備 考	
			うち借地			
個 別 利 用 地	耕 地	田	45			
		畑				
		樹園地				
		計	45			
	耕 地 以 外	牧草地	25		25	
		野草地				
		計				
	畜舎・運動場	30		30		
	そ の 他	山 林				
		原 野				
計						
共同利用地						

4) 家畜の飼養・出荷状況

(単位：頭)

品 種 区 分	交 雑 種	乳 雄	合 計
期 首	269	12	281
期 末	297	0	297
平 均	283	6	289
年間出荷頭数	107	12	119

5) 施設等の所有・利用状況

種 類	構 造 資 材 形式能力	棟 数 面積数量 台 数	取 得		所有区分	備 考 (利用状況等)
			年	金 額(円)		
畜 舎	哺乳舎	鉄 骨	1 棟	S 43年	500,000	
	育成舎 1号	木 造	1 棟	S 45年	500,000	
	〃 2号	鉄 骨	1 棟	S 53年	500,000	
	肥育舎 1号	〃	1 棟	S 60年	3,000,000	
	〃 2号	〃	1 棟	S 59年	8,000,000	
	〃 3号	〃	1 棟	H 4年	5,000,000	
	〃 4号	〃	1 棟	H 2年	6,000,000	
	〃 5号	〃	1 棟	H 7年	7,000,000	
施 設	堆肥舎 1号			S 63年	2,000,000	
	〃 2号			S 58年	2,000,000	
	倉庫 1号			H 7年	5,000,000	
	倉庫 2号			H 7年	2,000,000	
機 械	軽トラック			H 1年	500,000	
	軽トラック			H 12年	380,000	
	軽ダンプ			H 12年	850,000	
	2 tダンプ			H 2年	2,500,000	
	2 tダンプ			H 14年	670,000	
	ボブキャット			H 13年	4,000,000	
	ボブキャット			S 63年	1,500,000	
	リフト			S 58年	1,500,000	
	トラクター			H 9年	3,500,000	
	トラクター			H 5年	700,000	
自動給餌機			H 7年	3,000,000		

6) 経営の推移

年次	作目	頭数	経営および活動の推移
以前	水稻		1頭飼の水稻主体経営
S38年	和牛肥育	30頭	和牛肥育経営
S48年	乳雄ほ育・ 育成開始		和牛肥育から乳雄ほ育・育成を開始する
S50年		50頭	育成舎増築
S53年		80頭	
S56年		100頭	本人Uターン
S59年	乳雄一貫	130頭	肥育部門を取り入れた一貫経営開始
S60年		150頭	肥育舎増設20頭増設
S61年			本人結婚
S62年		180頭	長男誕生 肥育舎増設30頭増頭
H3年		230頭	肥育舎の増設により50頭増頭
H4年		280頭	肥育舎の増設により50頭増頭
H7年		300頭	牛舎内改築により20頭増頭
H11年	F <sub>1</sub> 一貫切替	300頭	資金（近代化）を活用してF <sub>1</sub> もと牛の導入を 図る。
H13年			2月で全頭F <sub>1</sub> となる。

7) 自給飼料の生産と利用状況

(平成13年1月～平成13年12月)

区分	ほ場 番号	地 目	面積 (a)	所用 区分	飼料作物の 作付体系	10a当たり 収量(t)	総収量 (t)	主な 利用形態
牧草			25	自作地	エン麦	5.5	13.75	青刈り
					ソルゴー	6.0	15.00	青刈り
合計			25				28.75	

8) 経営の実績・技術等の概要

(1) 経営実績

期 間		平成13年1月～平成13年12月		経営実績	
経営 の 概 要	労働力員数 (畜産)	家 族 (人)		1.6	
		雇 用 (人)		0	
	肥育牛平均 飼養頭数	肉用種 (頭)			
		交雑種 (頭)		283	
		乳用種 (頭)		6	
	年間肥育牛 販売頭数	肉用種 (頭)			
		交雑種 (頭)		107	
		乳用種 (頭)		12	
	収 益 性	肥育部門年間総所得 (千円)			16,832
肥育牛1頭当たり年間所得 (円)			58,243		
所 得 率 (%)			29		
肥 育 牛 1 頭 当 たり		部門収入 (円)			201,013
		うち販売収入 (円)			201,013
		売上原価 (円)			163,407
		うちもと畜費 (円)			46,613
		うち購入飼料費 (円)			87,165
		うち労働費 (円)			12,667
	うち減価償却費 (円)			9,543	
生 産 性	品種・肥育 タイプ (一貫 タイプ F <sub>1</sub> )	肥育開始時	日 齢 (日)	20	
			体 重 (kg)	40	
	肥 育 牛 1 頭 当 たり	出荷時月齢 (ヵ月)	26		
		出荷時生体重 (kg)	728		
	平均肥育日数 (日)			793	
	販売肥育牛1頭1日当たり増体重 (DG) (kg)			1.12	
	対常時頭数事故率 (%)			0.8	
	販売肉牛1頭当たり販売価格 (円)			448,174	
	販売肉牛生体1kg当たり販売価格 (円)			671	
	枝肉1kg当たり販売価格 (円)			1,085	
	肉質等級3以上格付率 (%)			73.1	
	もと牛1頭当たり導入価格 (円)			79,710	
	もと牛生体1kg当たり導入価格 (円)			1,993	
肥育牛1頭当たり投下労働時間 (時間)			12.7		
安 全 性	総借入金残高 (期末時) (万円)			2,210	
	肥育牛1頭当たり借入金残高 (期末時) (円)			76,470	
	肥育牛1頭当たり年間借入金償還負担額 (円)			20,138	

## (2) 技術等の概要

主な飼養品種	交雑種
飼養方式	群飼方式
自家配合の実施	なし
協業・共同作業の実施	なし
施設・機器等共同利用の実施	なし
生産部門以外の取り組み	なし
肥育の目標	肉質重視
預託肥育牛の割合	0%

## 3 家畜排せつ物処理・利用方法と環境保全対策

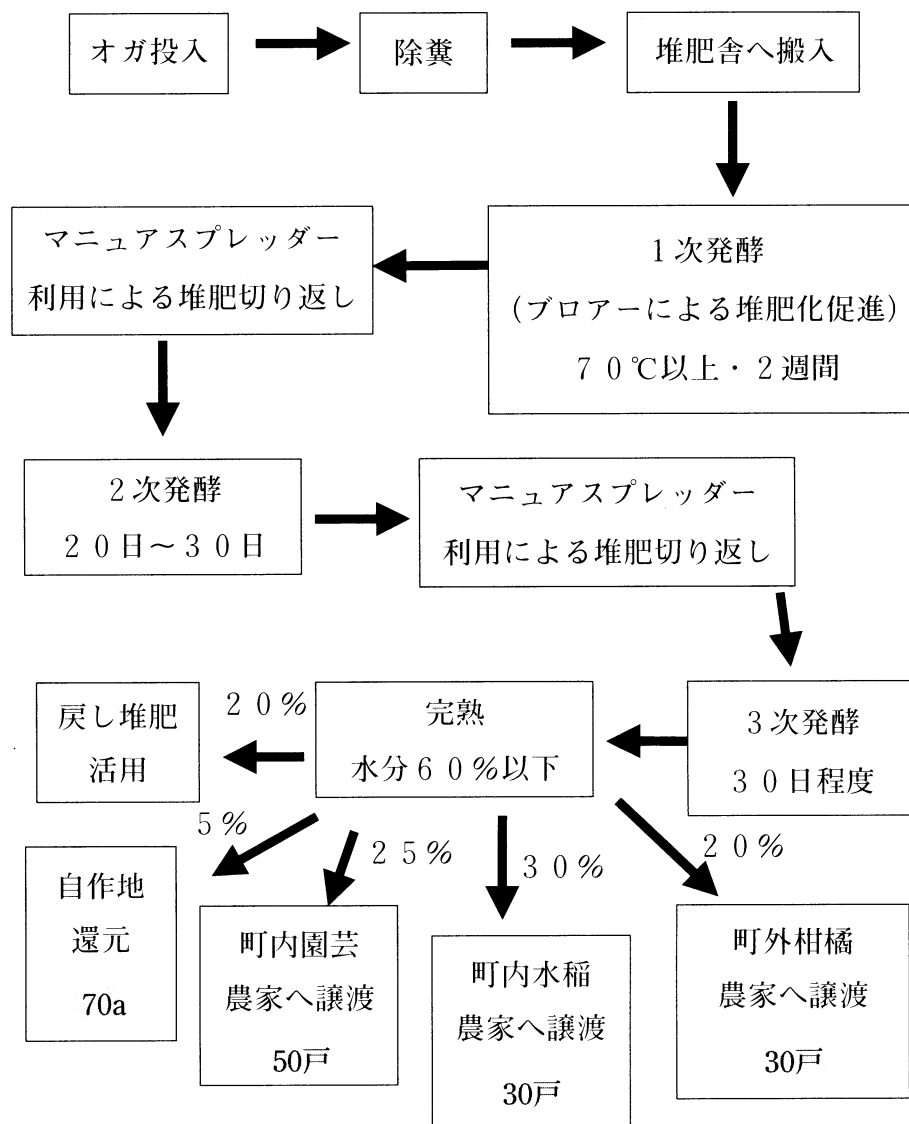
### 1) 家畜排せつ物の処理方法

- ① 堆積によりプロアーを加えながら発酵温度（70度C以上）を確認し、一次発酵促進を図っている。
- ② 約2週間後マニユアスプレッダーを使って切り返し作業をする。
- ③ その後20日～30日間隔で切り返し作業を行い、2次発酵乾燥させる。
- ④ 出来上がり堆肥は、水分60%を切り、基本的には戻し堆肥として80%を利用したいが、現在は需要が多く、全体の20%利用している。

#### <牛房床管理>

十分なオガ（戻し堆肥）投与と定期的な除ふん処理と併せ、すべての牛房に直下型ファンの設置により床面乾燥に努め、臭気、ハエ対策に努めている。

(処理フロー図)



2) 家畜排せつ物の利活用

内 容	割合 (%)	品質等 (堆肥化に要する期間等)
販 売		
交 換		
無償譲渡	75	3ヵ月未満の堆肥 (水分調整等は60%程度)
自家利用	5	自給飼料栽培等に活用
そ の 他	20	戻し堆肥で活用



### 3) 評価と課題

#### (1) 処理・利活用に関する評価

- ① 臭気・ハエ対策は万全を期しているため、悪臭は発生していない。
- ② 堆肥が良質で需要が高い。
- ③ 安価な施設で良質な堆肥生産ができている。
- ④ 定期的に堆肥の成分分析を実施し、堆肥生産に意欲的である。

#### (2) 課題

- ① 現在の堆肥施設では、需要期に完熟堆肥の生産が追いつかないため、計画的な堆肥の供給を図るための堆肥舎の増設と良質堆肥生産意欲の高い仲間づくりによる供給体制の確立を図る。
- ② 家族労働の中で良質堆肥生産に努め、有利販売による収益の向上を目指す。

### 4) その他

#### (1) 畜舎周辺の清掃

- ① 毎月敷地内および敷地周辺の草刈りを実施するとともに、都度、牛舎内外の清掃および整理整頓に心掛け、農場全体の環境美化に努めている。
- ② 作業効率と併せ、気持ちよく仕事ができる環境に心掛けている。

#### (2) 臭気・ハエ対策

中山間地であり、周辺には人家はないが、全牛房に直下型ダクト設置と潤沢なオガ投与により、常に良好な床面状態が確保されている。

当然、地域の苦情は発生していないが、地域住民との連携を図り、環境に最大限配慮することは当然と考えている。

## 4 地域農業や地域社会との協調・融和についての活動内容

### 1) 畜産仲間との共存

現在は、JAえひめ南肉牛生産部会副会長として、部会活動の支援をしている。

さらに、本年度管内の若手肉用牛・酪農農家の有志10名で「宇和島地区畜産経営システム研究会（仮称）」を8月に設立する予定であり、地域が抱えている課題や流通についての勉強会および研究会を通じ、会員の連帯強化と方向性の意識統一を図り、地域畜産振興に役立てたい。

### 2) 地域循環型農業の確立

現在ふん尿処理については、良質な堆肥生産を図る中で、需要も高まってきているが、地域のニーズに合った良質堆肥生産に取り組み、地域循環型農業の取り組みに貢献したい。

### 3) 生産販売の確立

「地産地消」にあやかり、地域住民に喜ばれる地場ブランドによる「安全・安心・新鮮・美味」な牛肉の販売・流通体制の確立を目指す。

## 5 後継者確保・人材育成等と経営の継続性に関する取り組み

### 1) ゆとりある畜産経営の確立

地域農業後継者と協力を得て、休暇が取れるようになった。このことにより、家族旅行や1泊の研修を計画的に実施している。

これからは、今以上に冠婚葬祭等に対応できる地域の後継者や在村青年との連携を図りゆとりある経営を実施していきたい。

また、私の後継者は15歳で将来どうなるか分からないが、「子は親の背中を見て育つ」といわれるように魅力ある肉牛経営をすることで、後は子供が決めると思っている。

### 2) 地域人材の育成確保

前述のように地域内の後継者や在村青年と連携し、ヘルパー制度の取り組みや地域循環型農業を確立するためのオペレーター等の育成にも力を入れていきたい。

## 6 今後の目指す方向と課題

### 1) 飼養管理の徹底による儲ける上質肉生産の取り組み

上物率および増体は優秀な成績であり、良質肉生産の観点からは現状の技術を継続するとともに、新たなる消費者ニーズに合った上質肉生産に取り組む。

群管理と併せ今後、技術・経営分析とが一体化になった、畜産会のパソコンソフトを取り入れ、よりきめ細かい個体毎の分析結果を基に改善徹底を図る。

### 2) 労働力の確保

今までは、父が主体の経営であったが、スムーズな経営移譲が行われている。しかし、将来、規模拡大・多様な取り組みを考えるとヘルパー及び雇用の確保が重要になってくる。このような観点からもマニュアル化の徹底と先端技術の研究・取り組みが必要であると考えている。

### 3) 地場ブランドによる販売

地域住民に喜ばれる地場ブランドを目指していることから、Aコープ等の地元で消費できるよう流通体制を整備し、「安全・安心・新鮮・美味」な牛肉を食卓に届けられるようにしたい。

### 4) 良質堆肥生産の確立

堆肥舎の拡大による地域ニーズに合った上質堆肥生産および販売に取り組む。

### 5) 繁殖一貫経営

将来は繁殖一貫経営に取り組みたい。